

イベント
この史代×竹宮恵子 「マンガ表現論」を超えて



日時 2019年2月9日(土) 14:00～16:00

会場 京都国際マンガミュージアム 1階
多目的映像ホール

出演者

この史代(マンガ家)

竹宮恵子(マンガ家/京都精華大学教授/
IMRCセンター長)

吉村和真(京都精華大学教授[司会])

主催 京都精華大学国際マンガ研究センター
京都国際マンガミュージアム

担当研究員 伊藤遊

実施概要

この氏のマンガ作品「ギガタウン 漫符図譜」を紹介する企画展「ギガタウン・イン・テラタウン この史代の「漫符図譜」(詳細は昨年の方次報告書を参照のこと。)の関連イベントとして開催された。

まず、同作が創作されることになった動機や、「鳥獣人物戯画」がモチーフとして採用されるまでの経緯などが、作家自身によって語られ、具体的な回を見ながら表現上の工夫について、この氏と吉村氏が解説した。

続いて、竹宮氏が、「マンガ表現論を越えてマンガ表現論って、本当は、何?」と題されたプレゼンテーションを行った。学術研究としての「マンガ表現論」の担い手が、「描き手」ではなく「読み手」に偏ってしまっていることによって、その関心が、マンガ表現における「大樹の先端の繊細な枝先」に集中してしまっていると指摘、そのことによって、マンガ表現の「骨太な大樹の幹」が失われるかもしれない、と訴えた。「昔、マンガはもっと簡素で、集約されたものだった」し、「シ

